

三輪の麻糸

楠山正雄

青空文庫

むかし神代かみよのころに、大國おおくに主命ぬしのみことの幸魂さきみたま、奇魂くしみたまの神さまとして、この國くにへ渡わたつておいでになつた大物主命おおものぬしのみことは、後のちに大和國やまとのくにの三輪みわの山におまつられになりました。さて、その山を三輪山みわやまというについて、こういふお話はなしが伝わつたっています。

ある時とき大和國やまとのくにに、活玉依姫いくたまよりひめという大そう美しいお姫さまがありました。

この活玉依姫いくたまよりひめの所ところへ、ふとしたことから、毎晩まいばんのように、大そう気高けだかいりつばな若者わかものが、いづどこから来るともなくたずねて来きました。そのうちに、とうとう若者わかものは、お姫さまのお婿むこさんになりました。

間まもなくお姫さまには子供こどもが生まれそうになりました。ところで、そのお婿むこさんははじめから、夜よおそく来きては、夜の明あけないうちに、いつ帰かえるともなく帰かえつてしまうので、お姫さまのほかには、だれもその顔かおを見知みしつたものもありませんし、どこのだれだといふことは、お姫ひめさますら知しりませんでした。

二

お姫さまのおとうさまとおかあさまは、ふしぎに思つて、どうかしてそのお婿さんの正ようたい体みとどを見届みとどけたいと思おもいました。そこである日お姫さまに向むかつて、

「今夜お婿さんの来くる前まえに、部屋へやにいつぱい赤土あかつちをまいてお置おき。それから麻糸あさいとを針はりにとおしておいて、お婿さんの帰かえるとき、そつと着物きもののすそにさしてお置おき。」

といいつけました。

お姫ひめさまはその晚ばんいいつけられたとおり、大きな麻糸あさいとの玉たまをお婿むこさんの着物きもののすそに縫ぬいつけておきました。

あくる朝見あさみると、麻糸あさいとの先さきは針はりがついたまま戸との鍵穴かぎあなを抜ぬけて、外そとへ出ていました。そして麻糸あさいとが引ひかれるにつれて、糸卷いとまきはくるくるとほぐれて、もう部屋へやの中なかにはたつた三まわり、輪わになつただけしか、糸いとは残のこつていませんでした。

お婿むこさんが戸との鍵穴かぎあなから出て行つたことが、これで分わかりましたから、お姫ひめさまはその糸いとをたぐりたぐり、どこまでもずんずん行つてみますと、糸いとはおしまいに三輪山みわやまのお社やしろの中なかに入はいつて、そこで止とまつておりました。

それではじめてお婿むこさんが大物主命おおものぬしのみことでいらつしやったことが分かりました。そして糸いとが三輪みわあとに残のこっていたので、その山をも三輪山みわやまと呼よぶようになりました。

青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：大久保ゆう

2003年9月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

三輪の麻糸

楠山正雄

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>